編集後記

本号の一橋ローレビューを無事に発行することができました。執筆者の皆さま、ご協力いただいた先生方、事務の皆さま、そして編集に携わったすべての方々に心より深く感謝申し上げます。

本号では、修了生による3本の投稿論文、在学生による1本の投稿論文を掲載しています。司法試験の在学中受験が始まり、在学中に司法試験を受験しながらローレビューに掲載する原稿を並行して執筆することの難しさから、今回は修了生の投稿論文が中心となりました。在学生は、司法試験の受験や授業と並行して、修了生の皆さんは、司法修習や海外での学修と並行して、一橋大学法科大学院の選択科目である「法学研究」で執筆したものを、忙しい中でさらに加筆修正をしてより発展した内容に仕上げています。各論文は異なる領域を扱い、新たな視点を提供するものとなりました。

また、本号には、但見亮先生、土井翼先生、中西優美子先生にエッセイを寄稿していただきました。但見先生には、中国法学者としての人生について、土井先生にはイタリアでの研究の日々について、中西先生にはクロアチアでの日々について執筆いただきました。普段の授業ではなかなかお聞きすることのできない内容で、非常に興味深いものとなっています。大変お忙しい中、執筆していただいた先生方に、改めて御礼申し上げます。

本号では、「法学研究」における指導教員とは別の先生方に各論文の査読をお願いしました。大変お忙しい中、タイトなスケジュールであったにもかかわらず、細やかな査読をしていただき、誠に感謝申し上げます。

また、本号の刊行にあたり、顧問の石田剛先生には多大なるご尽力をいただきました。編集のあらゆる場面でご支援を賜り、困ったときには適切なご助言をいただきましたことに、厚く御礼申し上げます。

一橋ローレビューは、創刊号の編集後記において「多くの一橋大学法科大学院関係者の起点となり、学問のみならず、法曹実務の発展に寄与すること」を目的として掲げています。コロナ禍を乗り越え、オンライン授業が原則なくなり、互いに顔を合わせて「共助」の精神を全うできる環境に戻った今、本号がその目的を果たせるものになっていれば幸いです。ぜひ本号をご覧いただき、今後も一橋ローレビューが法曹実務の発展に寄与し続けることを願っております。

2025年3月

一橋ローレビュー編集委員

文責　櫻町友子